

はまかせ

風が運ぶお知らせ便り♪

2014.05
Vol.05

ワンランク上の病院をめざして

私たちは、患者さんの意思を尊重し、高度で良質な医療を提供することによって、地域社会に貢献します。



nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp

Message メッセージ

消化器病センターの開設にあたって

■概要、Q&A、スタッフ紹介 etc.

Information お知らせ

■にしびようTopics

ドクターカーの運用を開始しました

■新人、若手教育

- ・診療部より専攻医の声
- ・看護部より新人研修

■院長エッセイ「四季雑感」

大きいほうの福笹

■医療技術NOW!

腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術

■絵の中の風景を旅するvol.5

にしびよう美術館館蔵品を毎回紹介



こころを込めた
チーム医療を
提供します！

消化器病センターの開設にあたって

院長：河田純男



本 年1月1日をもって、当院に消化器病センターが開設されました。このセンターは、消化器外科と消化器内科が一体となって、高度な消化器病診療を行うことを目指しています。具体的には、両診療科がその主体性を保ちながら、消化器病センター外来、内視鏡センターおよび病棟で協働して、診断、治療方針の決定および治療に当たることになっています。病棟の共同運用は4月からになりますが、同センターがフル稼働をはじめますと、診断から治療までを、より一層迅速に行うことができます。

私 どもの消化器病センターが、地域医療機関の皆様にご活用いただけることを切に願っています。最後に、この紙面をおかりして、同センターをたちあげるために、長期間にわたり多大な尽力をいただいた各部門の皆さんに深謝いたします。



.....

同 センターの開設により、患者さんにさらなる安心感を持っていただけるようになるとともに、地域医療連携を今まで以上にスムーズに進めることができると期待しています。

いわゆる消化器病センターは、いくつかの病院で設置されていますが、当院のような外来、内視鏡センターおよび病棟のすべてが、外科と内科が一体となって運用される消化器病センターは、全国的にみても今までになかったのではないかと聞いています。

手術前管理について質問！ INTERVIEW



Q 術前から禁煙をするのはなぜですか？

A 術後は麻酔や気管内挿管の刺激で気管内分泌が増え、粘稠度が増します。喫煙歴のある方は、喫煙の刺激により痰が多くなります。術後は創痛のため、大きな咳がしにくく、痰が出せず肺合併症を起こしやすくなります。肺合併症を防ぐために禁煙が重要になります。

Q 全身麻酔の術前に口腔ケアがなぜ必要ですか？

A 口は呼吸器と消化器の入口です。侵襲の大きい消化器の手術時に口の中の殺菌が気管から進入し、肺炎を起こすことがあるため感染を予防する必要があります。手術前に口の中を清潔にすることで予防効果が期待できます。術前に歯科受診をしていただく場合があります。

(7階病棟看護師長：野網美紀子)

最新情報

□内視鏡センターにスパイグラスを導入しました(平成25年7月)

スパイグラスは、内視鏡の鉗子口を通して、極細径の内視鏡を通すシステムで診断用および治療用のデバイスを通すことができます。胆管や膵管内の病変を目視でき、視認下で鉗子を用いて生検を行うことにより胆管内の病変に対する診断能力が飛躍的に向上しました。

従来のERCPにおいては、上部胆管における閉塞機転の診断が、ブラシ細胞診や、胆汁細胞診などの間接的な診断にとどまっておりましたが、直接視認による形態的診断及び、視認下での生検による診断を行うことができるようになりました。今後、炎症性腸疾患などに合併した瘻孔の評価や、様々な病態にスパイグラスを活用できると考えております。

(消化器内科科長：松本仁)



スタッフ紹介

- 河田 純男(院長、消化器病センター長)
- 矢野 浩司(副院長、消化器病センター副センター長、外科部長)
- 乾 由明(副院長、地域医療連携部長、消化器病センター副センター長、消化器内科部長)
- 安永 祐一(検査・放射線部長、内視鏡センター長、消化器内科部長)
- 榎原 啓之(化学療法担当部長、化学療法センター長、腫瘍内科科長、消化器内科部長)
- 辻江 正樹(医療情報担当部長、内視鏡センター副センター長、消化器外科科長、下部消化管チーム、大腸ESDチーム)
- 三木 宏文(消化器外科部長、上部消化管チーム)
- 柏崎 正樹(消化器外科部長、肝胆膵チーム)
- 吉岡 慎一(消化器外科医長)
- 松本 仁(消化器内科科長、肝チーム)
- 福島 寿一(消化器内科医長、緩和ケアチーム委員長)
- 柳川 和範(内視鏡センター副センター長、消化器内科医長、ERCP・EUS・上部ESDチーム)
- 森田 香織(消化器内科医長)
- 瀧内 大輔(消化器外科医長)
- 濱野 梨絵(消化器外科医長)
- 齋田 美希(消化器内科医長)
- 武田 梨里(消化器内科医長、ESD・PEG担当)
- 波多 豪(消化器外科医長)
- 安田 華世(消化器内科専攻医)
- 植 直樹(消化器内科専攻医)
- 久保 維彦(消化器外科専攻医)
- 柳澤 公紀(消化器外科専攻医)

ドクターカーの運用を開始しました



当院では、阪神間で初めて、医師を救急現場に派遣するドクターカーの運用を開始しました。



出動する範囲は、阪神間6市1町(西宮市・尼崎市・芦屋市・伊丹市・宝塚市・川西市・猪名川町)で、平日7時～21時の運用です。医師が現場に駆けつけ、いち早く医療行為を始めることで、重症患者の救命率を高めるだけでなく、社会復帰率を高めることを目標にしています。

(救命救急センター長：鴻野公伸)

新人若手教育

専攻医の声

医師臨床研修医制度は来年で10年を迎え、ほぼ定着した感があります。内科、救急、地域医療の3診療科が「必修科目」、外科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科が「選択必修科目」とされ、必修科目の全て及び選択必修科目のうち2つの診療科について、必ず臨床研修を行うことになっています。必修科目が少なくなったことで、2年目の選択科目により自由度が増したことになります。基幹型臨床研修病院として現在13名の初期臨床研修医と17名の専攻医が日夜忙しく働いています。彼らの生の声をここで掲載して参ります。

(臨床研修センター長：矢野浩司)

私は平成23年に関西医科大学を卒業し、初期臨床研修医として入職しました。引き続き当院で専攻医として従事しています。整形外科の幅広い疾患の中でも特に骨折などの外傷性疾患を担当しています。救急初療、手術、リハビリテーションという一連の流れの中で、一人ひとりの患者様と真摯に向い最善の方法を提案し、ゴールである社会復帰のサポートをしています。忙しいながらも、責任あるこの仕事に大きなやりがいを感じています。西宮で生まれ育った生粋の宮っ子ゆえ、こうして西宮で診療に携われることに喜びを感じ、誇りに思っています。一人でも多くの患者さんの力になれるよう日々精進してまいります。

(整形外科専攻医：佐々木優)

看護部新人研修

今年度は、新人看護師28名を迎え、一年間を通して自律に向けた指導を行っています。平成23・24年度は新人看護師の離職率は0%であり、今年度も現在まで離職者はありません。新人看護師の教育研修では、基礎看護技術の研修に始まり、急変時の看護(BLS)研修など、11の研修に取り組んでいます。当院が目指す看護師像はA:Action(行動)B:Believe(信念)C:Challenge(挑戦)D:Dream(夢)です。今後も思いやりのある看護が提供できるように育成していきます。

(10階病棟看護師長：森岡法子)



四季雑感



新しい年が明けて、大変に寒くなっていますが、気分的には世の中が少し明るくなっているように感じられます。宵えびすに西宮神社にお参りましたが、気のせいかな人々の表情が華やかで見えました。屋台の電燈がオレンジ色の懐かしい光を放っていて、真冬の夜の冷たい空気を暖かく包んでいるようでした。良い年でありたいという参詣の人たちと、想いをともにしているという連帯感で幸せな気分をもらって、奮発した大きいほうの福笹を携えて帰りました。

参詣の後、西宮は酒どころでもありますから、熱燗をひっかけて帰られた方も多いのではないかと思います。白状しますと、小生もその一人です。しかし、お酒を飲む量が多過ぎますと、いろいろな病気を引き起こしてしまいます。そのひとつが痛風です。これは関節に尿酸という物質がたまって炎症を起こしますが、とくに足の親指の関節や足関節が赤く腫れて強い痛みがでるので、大変に辛い病気です。現在では、痛風患者は50万人にのぼってお

り、その予備軍である高尿酸血症(血中の尿酸値が高い状態)は数百万人に達しています。

ヒトがなぜ痛風にかかるようになったかについては、面白い話があります。本来、哺乳類には尿酸を分解する能力(酵素)が備わっていたのですが、進化の過程で、サルなど霊長類からヒトまでが尿酸を分解できなくなりました。それでも人類がお酒を飲んだり、肉食をするまでは、問題がなかったわけです。

ビタミンCも同じように、霊長類から体内で作れなくなりました。樹の上で生活し、十分なビタミンCが摂れていたので、作らなくてもかまわなかったのでしょう。ところが、新鮮な野菜や果物が摂れない生活(大航海時代など)になると、壊血病にかかったということのようです。ビタミンCは老化の予防にも役立つと言われていますが、現代人はビタミンCの摂取量が不足気味のようです。また風邪の予防効果があるとも言われています。

冬に不足がちな野菜や果物を十分に食べて、深酒を避けて、暖かくして、春を待ちましょう。



院長
河田 純男



医療技術 NOW!

西宮病院の「今」がわかる。

「腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術」

米国では鼠径ヘルニア患者が年間80万人であり鼠径ヘルニア専門の外科医もいます。日本では年間14万人と推定されますが、専門外来のある施設は少ない現状です。当院はヘルニア外来を開設し、鼠径ヘルニアの治療に力を入れています。腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術は、お腹に5mm程度の穴を3カ所開け、テレビモニターでヘルニアを見つけ、別の穴から入れた手術器具を操作して治療します。傷あとが小さく痛みが少ない、日常生活に早く戻れる、左右2ヶ所にあっても同時に治療できる、などのメリットがあります。腹腔内を観察しながら手術を行うので修復すべき場所が一目でわかり、症状が出ていない小さなヘルニアの見落としが少なく、非常に有用な方法です。

(消化器外科医長:吉岡慎一)

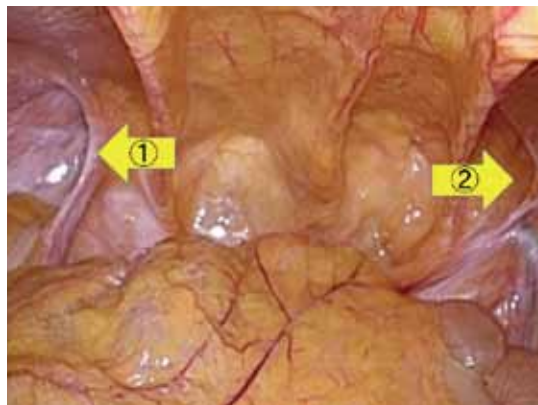


図)腹腔鏡で観察した鼠径ヘルニアの様子。①は左側で陥凹しているヘルニアで、②の右側は正常であることが観察できます。

絵の中の風景を旅する vol.5

<http://www.nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp/>

当院外来ロビーや各病棟には、地域の方々や入院患者さん、そのご家族などからのご寄贈による200点以上にのぼる絵画が飾られています。“にしびょう美術館”の貴重な“館藏品”は、当院ホームページ内の「にしびょうWebミュージアム」でも常設展示していますが、これらの作品の中から、毎回、ちょっと気になる1作品をとり上げてご紹介いたします。一緒に、絵の中の風景を旅してみませんか。



展示場所

本館 3 階
MRI 室前の壁面

あなたは、「冬をイメージする絵を一つ上げるとしたら、どのような絵をイメージしますか？」
私は、この絵のように、鉛色の空が覆い、その下の海では大きな波がうねりを上げて押し寄せ、身を切るような海風が吹く「日本海」をイメージします。この絵を見ていると、厚手の服と帽子を身にまとい、完全防寒の姿をしても、何故か体の芯まで冷え切ってしまいます。しかしながら、厳しい冬だからこそ、夏の太陽がキラキラと降り注ぐ穏やかな海と違い、迫力があり、より青と白のコントラストが映える美しい作品だと思えるのです。

(総務部：足立彰久)

編集後記

編集室



寒さ厳しい折、みなさまいかがお過ごしでしょうか。

昨年は台風被害等自然災害も多く、また食品偽装問題等の出来事もありましたが兵庫県立西宮病院は今年も誠実に、またさらにワンランク上の病院を目指した努力を続けてまいります。

当院の飛躍のためには地域の先生方のお力添えが欠かせません。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

(薬剤部：高村志保)

HAMAKAZE
2014.05
Vol.05

兵庫県立西宮病院

〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町13番9号
TEL:0798-34-5151(代表) FAX:0798-23-4594

地域医療連携センター FAX:0798-34-4436
E-mail:chiiki-ken@hp.pref.hyogo.jp

nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp

2014.2 発行